

(別紙8)

【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 11月 23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0 1 7 3 5 0 1 2 4 8		
法人名	医療法人社団 千寿会		
事業所名	高齢者グループホーム プラタナス三愛		
所在地	登別市中登別町141番地1 (電話) 0143-83-3101		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年11月18日	評価確定日	平成21年12月2日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームプラタナス三愛」は、長年地域医療を支えてきた三愛病院を母体として特別養護老人ホームや老人保健施設などと共に、地域に根ざした高齢者の個別ケアを行いたいという運営者の思いで、平成17年登別に2番目のグループホームとして設立されている。登別駅から車で5分程で自然環境に恵まれた場所に位置し、広々とした清潔感あふれるグループホームである。施設長のケアに対する熱心で温かな思いと向上心は職員にも浸透するなど、役職者と一般職員の良好な関係の中、利用者と共にお互いに支え合いながら、常に利用者の意志を尊重したケアが行われている。利用者は家族や地域と係わりながら笑顔の絶えない明るい日々を送っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	家族への広報や職員の異動については、定期的に広報誌を発行して家族に報告している。介護計画作成時の担当者会議への家族参加は、事前に家族の意見を求める事はできているが、直接サービス担当者会議への参加ができていないとの事で、今後も家族への働きかけを工夫して取り組みを継続していく予定である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員に評価表を配布し記入してもらい、管理者がまとめ、ミーティングで話し合いを行い作成している。自己評価を行う事で、職員は日々の自分のケアを振り返る機会になり、役職者は職員の考えを知る契機になったと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、事業所職員や利用者、家族、地域住民、市役所担当職員や地域包括支援センター職員が参加し、2ヶ月毎に開催されている。事業所の状況報告や外部評価、地域包括支援センターからの情報提供、家族からの相談事などが議題として取り上げられ、会議内容が日々のケアに役立てられている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時に積極的に話しかけて気軽に意見などを言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。家族から出された意見は記録しミーティングなどで話し合い改善に努めてケアに役立てている。広報誌を3ヶ月毎に発行し事業所の様子や職員の異動などを報告すると共に、毎月「家族通信」を発行し個別の利用者の様子も写真や文章で伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町内のお祭りにテントや機材を貸し出し、利用者と共に参加している。また近隣で行われる漁港祭りの花火大会を見に行ったり、利用者の地元のお祭りに出かけるなど、地域住民との交流に努めている。今年度初めて家族と利用者で開催したプラタナス祭りに、今後は近隣住民の参加も呼びかけて行く予定である。避難訓練に地域住民も参加し、連絡、誘導、消火器の取り扱いなどの訓練を利用者と共に行っている。

## 【情報提供票より】(平成 21年 10月 19日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 3月 9日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤 14人、非常勤 3人、	常勤換算 12.6人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:14,000円 暖房費5,000円(11~3月)	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	1日当たり	1,200 円		

## (4) 利用者の概要(10月19日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9歳	最低	71歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定・特別医療法人社団千寿会 三愛病院
---------	---------------------

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に、利用者一人ひとりの能力を活かした自立生活支援、穏やかで充実した暮らしの支援などに加え、地域との関係を重視し、地域住民と共生できるホームを目指すという地域密着型サービスの事業所独自の理念を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、廊下に掲示すると共に、重要事項説明書や運営規程に掲載している。職員はネームプレートの裏に事業目的と共に運営理念を記載して常に携帯し、毎月のミーティングにおいて、日常業務に結びつけた理念の確認を行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内のお祭りにテントや機材を貸し出し、利用者と共に参加している。また近隣で行われる漁港祭りの花火大会を見に行ったり、利用者の地元のお祭りに出かけるなど、地域住民との交流に努めている。今年度初めて家族と利用者で開催したプラタナス祭りに、今後は近隣住民の参加も呼びかけて行く予定である。		今後は、地域の小学校や幼稚園などとの交流を進めていきたい意向なので、その取り組みを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、全職員に評価表を配布し記入してもらい、管理者がまとめ、ミーティングで話し合いを行い作成している。自己評価を行う事で、職員は日々の自分のケアを振り返り、自己を見つめる良い機会となり、役職者は職員の考えを知る契機になったと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、事業所職員や利用者、家族、地域住民、市役所担当職員や地域包括支援センター職員が参加し、2ヶ月毎に開催されている。事業所の状況報告や外部評価、地域包括支援センターからの情報提供、家族からの相談事などが議題として取り上げられ、会議内容が日々のケアに役立てられている。		
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	提出書類などは必ず持参して定期的に市役所を訪問し、常に担当者との連携を図っている。運営推進会議に参加してもらうと共に、制度改正などについて訪問して相談するなど常に事業所のサービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「さくら坂通信」の広報誌を3ヶ月毎に発行して、事業所の様子や職員の異動などを報告すると共に、毎月「家族通信」(さくら坂通信別号)を発行して、全体の様子と個別の利用者の様子を写真や文章で伝えている。金銭管理については、家族の来訪時に、報告して毎月確認印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に積極的に話しかけてコミュニケーションを深め、気軽に意見などを言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。家族から出された些細な意見も申し送りノートに記録し全職員に周知し、ミーティングなどで話し合い改善に努めケアに役立てている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的な異動は行われていないが、役職者の異動や一般職員の退職などによる異動が行われている。異動時は利用者に報告し、動揺が見られる利用者には、居室で会話をするなど個別に係わりを多く持つように配慮して、職員全員でサポートを心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム広域連絡会や北海道グループホーム協議会などが主催する外部研修に、経験年数や職種に合わせて計画的に職員を参加させ、受講後に報告会を開催している。法人研修や内部研修も毎月行い、理念、ターミナルケア、認知症ケアやプライバシーの保護などについて充実した研修が行われている。		新人教育の計画を作成し、今後は教育体制を更に整えていきたい意向なので、その取り組みを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム広域連絡会の研修会などに一般職員も参加し、同業者との交流や情報交換を随時行っている。また、職員は個人的に他の事業所を見学したり、個別に同業者が同事業所を見学に来訪するなどの交流も行われている。		
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員に本人の情報提供を行い、見学時に適切な対応ができるように工夫している。本人が見学できない時は職員が自宅などを訪問して、納得して利用開始できるように配慮している。利用開始後は職員が顔馴染みになるように係わりを多く持ち、他の利用者との関係を築く工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、漬け物の作り方や料理の味付け、畑の土作りなどを学んでいる。「有難う」と言ってもらったり笑顔を見せてもらう事で、精神的にも常に支えられていると感じている。家事や畑仕事の他にも、一緒にテレビを見たり俳句を作るなど、職員と利用者は日々支え合い喜怒哀楽を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は常に利用者に寄り添い、表情などで思いや意向を把握するように努めている。表現の低下している利用者には、家族からの情報や元気な頃の話や係わり、表情をなどから本人本位の対応ができるように工夫している。</p>		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初期計画は、家族や病院、関係者からの情報を収集し個人シートを作り、本人、家族の意向を入れて計画作成担当者が2週間以内に暫定計画を作成している。原案をサービス担当者会議で意見交換し、その内容を家族に提示し同意を得ている。</p>		<p>事前に家族の意見を求めサービス担当者会議を開いているが、家族の参加で話し合う場を工夫したいとの事なので、一緒に作り上げる計画書の取り組みに期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月毎にモニタリングし、状態に変化がない場合は継続している。6ヶ月毎にサービス担当者会議で内容を評価し、本人、家族の意向も入れて見直しの計画を作成している。また食事が摂れなくなったなど状態に変化が生じた場合は、内容の追加や新たな計画を作成している。</p>		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の事情に応じて事業所の車で受診の送迎を行い、点滴治療が必要な時には職員が同行し付き添う事もある。個人の要望に沿って洋服などの買い物や理美容の送迎を行い、同法人老人保健施設の行事に参加するなど柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院が敷地内にある安心感もあり、定期受診を希望する事が多い。協力病院の外来看護師が週1回訪問し、利用者の状態を主治医に伝え連携を密にしている。入居前のかかりつけ医の受診などに家族が同行している場合は、家族を介して連携を取っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に「重度化した場合における（看取り）指針」を説明し同意書で確認している。可能な限り看取りを考えているが、継続的な医療行為がある場合は家族と話し合い入院治療になる。勉強会などで職員のケアを向上させて、入退院を繰り返し負担を軽減させたいと考えている。</p>		<p>看取りの方針を繰り返し話し合い、また職員が研修会で学び、安心して看取り介護に臨む取り組みに期待したい。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>施設長、管理者は世話をしている感覚での姿勢や言葉遣いがないように指導し、職員間で注意し合っている。排泄時間を事前にそっと教え、失敗があった時はさりげなく片付けて傷つけないように配慮している。個人情報などの書類は事務所に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、おやつ、体操などは大まかに決めているが、強制しないでその人のペースに合わせて支援している。昔の歌と一緒に歌ったり、花を活けるなどの趣味も支援している。意思を伝える利用者が多いのでできるだけ意向に沿うように対応し、外に出たい時は仕事を一時中断して行動を共にしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はユニット別に職員が作り、利用者の好みや事業所の庭で採れた野菜などを取り入れている。利用者は調理の下ごしらえ、米とぎ、味付け、盛り付けに参加し、食後は下膳、後片付けなどを職員と一緒にしている。食事中は会話を交わしながら共にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方まではいつでも入浴ができる態勢をとっており、午前中に入る利用者もいる。入浴を嫌がる人には声かけの工夫をし、また体調や気分に合わせて最低でも週2回の入浴を行っている。眠れない時には足浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や畑仕事など利用者の得意な事を引き出し、自信が得られるように配慮している。中庭のテラスでお茶やバーベキューを楽しみ、指導者を招いて蕎麦打ちを行い、外出に出かけるなど食べる楽しみの機会を多くして気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者と話し合い、その日、その時の気分で毎日のように外出している。温泉、喫茶、買い物などを兼ねてドライブを楽しみ、冬季も周囲を歩き、お茶やケーキを食べに車で出かけるなど外気に触れる機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝5時～夜9時過ぎまで鍵をかけないで、チャイムの音で出入りを確認している。外に出た時は一緒に出かけている。個人の行動パターンを全員が把握し安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力の下、日中、夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。住民や利用者も参加し、連絡、誘導、消火器の取り扱いなどを訓練している。救急救命の講習を受けた職員もいるが、業務に即しての講習会を考えている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分量は個人の健康シートに記録し、水分を摂りたがらない人には居室にさりげなく飲み物を用意している。必要な時に食事量を記録しているが、全員を記録し把握する方向でいる。法人の管理栄養士に年に数回献立表を確認してもらい、栄養バランスに配慮している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は全体的に広く取ってあり清潔感がある。天窓がある高い天井の居間は明るく開放的で、食卓テーブルとソファ席を分けゆったりと過ごせるように配置されている。テラスへの出入りの窓は大きく、四季を十分に楽しめる環境になっている。壁には行事の写真、季節の装飾品が飾られている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはクローゼット、ベッド、台付きのテレビが事業所で用意されており、よく整頓されている。整理ダンス、ソファ、籐椅子などの馴染みの家具が持ち込まれ、出窓を本棚にしたり、家族の写真、切り込み作品、花などを飾ったりして、その人らしい居室になっている。冬季には洗濯物を干し乾燥防止に配慮している。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。